様式２－１

令和元年度　自己評価・学校関係者評価に係る評価結果等報告書（小・中学校用）

学校番号　高小 18

このとおり、学校評価について報告いたします。

高松市立　　多肥小　　学校　　校長　　溝内　哲也　　印

	評価項目	評価 ４段階	自己評価結果と改善方策等	学校関係者評価結果および意見等
1	確かな学力の育成に関すること （学力向上、キャリア教育、英語教育、情報教育等）	3	12 学級の校内研究授業で主体的に課題作りをしたり、多面的に物事をみるための対話を取り入れたりして、授業改善を進めていった。発展的な学習を取り入れることで、さらに学ぶ喜びを味わえるようにしていく。	・多肥校区の人口は、年々増加している。その中で年齢構成を見ると、若い世代の割合が急激に増加していることが特徴としてあげられる。学校と地域社会の関係が、新たな局面を迎えているのではないだろうか。小学校が中心となって特に子育て世代との関係作りをしていくことが、これから重要である。地域の団体を再編成し、若い人が参加しやすくなるような行事を学校と協力して創っていきたい。 ・勉強が楽しいと感じている児童の割合が昨年より増えている。しかし、６年生が２学期になると学習があまり楽しくないと感じているのは、内容が難しくなる部分もあるが、学校で学んだことが、社会とどう繋がっていくのか実感として捉えられていないからではないだろうか。いわゆるキャリア教育として、自分の将来を見つめ、こうなりたいという目標が持てるような活動を増やし、さらに取り組んでほしい。 ・本に親しむ時間の割合がやや減少していた。これは、昨年と比べて「23 が 60」などの読書指導が、クラスで十分でなかったからではないだろうか。読書記録としての毎日カード達成目標を書かせるなどの工夫し、意欲的に本を読む児童の姿がもっと見られるようにしてほしい。 ・家庭で遊びや運動を外でしている割合が減っている。その理由として、昨年度は、運動場が使えなかったので、休みの日に家庭で意識的に運動をさせていたのが、新運動場完成によって、それをしなくなったからではないだろうか。 　子どもへの働きかけは、家庭の役割が大きい。だから、学校として、どんな内容の働きかけをするかが大切になっている。
2	豊かな心を育てる教育の推進に関すること （道徳教育、小中一貫・連携教育、ふるさと教育、読書活動、体験活動等）	3	校内研究会、教科研究会の実践研究を通して、児童の道徳的実践力が高まっている。道徳の授業づくりについて、協議しよりよい授業にするための手立を考えた。	
3	生徒指導の充実に関すること （いじめ、不登校対策等）	3	生活目標が、個々の目標になっていない。生活振り返りカードを個人の目標につながる様式に変えていく。毎月のアンケートで、学校生活の悩みがある児童の把握ができている。	
4	運動に親しむ習慣づくりと体力の向上に関すること （体力・運動能力の育成）	2	新運動場が２学期から使用できるようになり、校内の遊び場が整備された。安全に効率的に体を動かすための課題が抽出できた。運動の量と内容に目標を立て来年度は、取り組む。	
5	食育の推進と心身の健康づくりに関すること	3	全校ぱくぱくデー（給食完食の日）やぱくぱくウィーク（給食週間に実施）の取組を行っている。栄養教諭の食育指導や「うまいもん出前講座」は、とても効果的であった。	
6	人権教育の推進に関すること	3	学習したことを「多肥っ子人権宣言」にまとめることができた。教室に掲示し意識づけを行った。人権に関わる授業参観や集会を行い、意識の高揚や保護者啓発に努めている。	
7	特別支援教育の推進に関すること	3	障害種別が増え、在籍人数も増えたため教員間で協力しながら支援をした。生活単元・自立活動は、行事を中心に異学年交流をして、社会性の育成に努めた。	
8	教員の資質向上と教育指導体制の充実に関すること (職員のコンプライアンス・現職教育等)	3	推進チームを構成し、リーダーを中心に毎月話し合う場を設け、責任感と実行力を持って取り組んでいる。若年教員に対して、中・長期的な視点に立った研修を計画し、資質向上できるように実践していく。	
9	安心・安全で質の高い教育環境の整備に関すること	2	地域単位で３０の班を編制。防災や登下校時の安全を確保するために、班会議と集団下校を実施した。登下校の仕方が課題になってきた。家庭と協力して、歩き方を指導していく。	
10	家庭や地域との連携・協働に関すること (高松型コミュニティ・スクール等)	3	家庭や地域に学校・学年だより、ＨＰの更新、ブログの発信を行うことで、計画的に情報を共有し協働できている。	
11	夏季休業日の短縮に関すること		８月の４日間で、担任が学級の全員と個別面談を行っている。休み中の生活や学習など、児童の想いを理解する良い機会となった。この面談で得た内容を２学期の指導に生かせるように学年団で、情報を共有していくことが必要である。	
	・学力の定着（補充的な学習の充実）	3		
	・教師と子どもが向き合う時間の確保	3		
	・ゆとりある教育課程の展開（ゆとりある学習進度等）	3		
12	働き方改革・業務改善に関すること (時間外勤務の削減等)	3	T-C@mpass 掲示板を活用し、効率的に会議が進められるようになった。全体で共有する場の確保が必要である。	